

的に並行する主義上の絶対反対と現實問題の解決を「二段構え」なぞと唱えるが如きは認識不足も甚だしいと言わねばならない。製鐵所全従業員運動は只だ單なる主義、主張だけの運動でもなければ亦断じて無責任なる左翼的政黨の運動でもない。全従業員が政黨政派を飛び越えて、しかも他人の力に依らず従業員自主的な組織で戦つた製鐵官民合同反対の闘争で従業員實際的な生活問題を無視することが出来るか否かは、製鐵所従業員以外の者には兎に角として、製鐵所従業員であるならば一目瞭然である従業員はこの眞剣にして壯烈であつた運動を口を極めて悪口雜言し或は二段構えとか方向轉換と唱えた批難、攻撃の悉くが淺しき政黨者流の政略的逆宣傳に過ぎなかつたことを今日の従業員は明白に知つてゐるのである。

△總罷業の戦術を棄てた従業員の愛國的結論

製鐵所従業員の實際生活に何等關係なき政黨者流の者が單なる主

義上の思想的な優越から製鐵所全従業員の自主的組織で結成された反対同盟で總罷業の決行を決議し、強く社會的に發表宣傳してゐながら従業員がゼネストで戦わなかつたのを執拗に批難叱責してゐるのを屢々聞いてゐるのだが、全従業員の強力果敢な闘争で従業員の現實生活上の諸問題を解決確保した以上、それでも是が非でも總罷業を行わねばならないと考へるのは共產主義的破壊運動である。當時従業員の間には總罷業を以て戦ふ可しと云ふ少數の純眞な急進的意見と（従業員以外の外部の者には政略的に總罷業を行ふことに依つて従業員の統制を擾亂する陰謀の意見）他で合法的な大衆闘争を以て主義上の合同反対と現實上の直接生活問題を有効強力に戦ひ取らうとする意見を持つ者との二派があつた。當時、滿洲問題を中心にして、北支那に戦雲低迷し祖國日本のために激闘の眞只中にあつて、しかも國際聯盟の眞意々急を告げ國際情勢は急迫して日本を中心に國際戦争の危機は日本全國